
特集：ケア労働の国際比較—新しい福祉国家論からのアプローチ— 趣 旨

この特集は、国際連合社会開発研究所（UN Research Institute for Social Development）の「ジェンダーと開発」部門の研究プロジェクト「ケアの政治社会経済（Political and Social Economy of Care）」（2005 - 2009年実施）に基づいて編まれたものである。本プロジェクトは、高齢化やグローバル化によるケア労働者の国際移動などを契機に、実践的かつ学問的な関心がますます強まっている「ケア」（高齢者や疾病者・障害者に対する介護および子どもの保育）を主題として、従来の社会科学的分析では捉え難かった「ケア」を可視化する理論装置の提案と、実証的国際比較研究の実践とをめざしたものであった。

開発関係のプロジェクトであるため、当初の参加国は途上国のみであり、同地域から福祉基盤の比較的整った国と未整備な国とを選ぶという基準により、アルゼンチン、ニカラグア、南アフリカ、タンザニア、韓国、インドが選ばれた。実施途中から先進国も含めることになり、日本とスイスが加わった。日本チームのメンバーは、埋橋孝文、阿部彩、田宮遊子、四方理人、落合恵美子の5人であった。

本プロジェクトの理論的核心理念は、「ケアダイヤモンド」と呼ばれる枠組みである。ケアの供給者として「家族／世帯」「市場」「国家」「非営利（コミュニティとすることもある）」という4つのセクターを考え、それらの果たす役割のバランスによって、当該社会のケア供給の構造を描き出すものである。福祉トライアングル・福祉ダイヤモンドなどに通じる福祉レジーム論の発想が根底にある。ケアレジーム論と言ってもよい。家族などの私的な関係により供給されると考えられがちなケアが、実は多様な供給者からさまざまなかたちで供給されていることを包括的に捉えるために、この枠組みはシンプルだが有効である。家族などから無償労働として提供されるケアと、介護労働者などから有償労働として提供されるケアを、一望できるのも利点と言えよう。さらに本プロジェクトでは、ジェンダーによるケアの不平等な配分にも注目した。本プロジェクトの理論的枠組みと学説的背景については、プロジェクトリーダーであるシャラ・ラザビの論文を参照していただきたい。

本プロジェクトでは、各国チームは5本のリサーチレポートの執筆を求められた。RR1:歴史的社会的背景、RR2:家族内における無償のケア提供の生活時間分析、RR3:各国の制度的枠組みの概観、RR4:市場におけるケア労働者の分析、RR5:総括、である。RR2の生活時間分析は不可視の無償労働やケア労働を可視化する方法であり、比較の成果は本特集の阿部論文での紹介のほか、デビー・バドレンダー編で出版が予定されている。ケアダイヤモンドが明示的に論じられたのはRR3とRR5であり、RR3の概要は本特集の斎藤論文で紹介しているが、途上国のRR3は*Economy and Society*誌の特集、RR5は書籍として公刊予定である。その他、本特集には、日本チームのRR4を基にした埋橋論文、RR5を基にした落合論文を収録した。

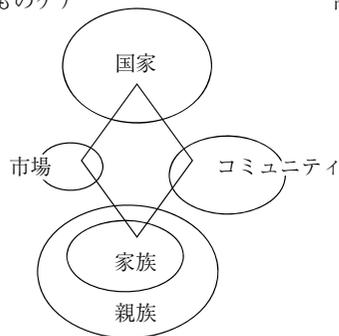
本プロジェクトを通じて、「ケアダイヤモンド」という包括的な枠組みが、社会間の比較にも、変化の分析にも、有効な手段であることが確認できた。例えば、日本チームの分析は、介護保険の導入によるケアダイヤモンドの変化を（暫定的にはあるが）描いている。また、アルゼンチンチームは、階層によってケアダイヤモンドの形状が全く異なることを示した。途上国を含め、ケアの提供体制やニーズ（例えば、

南アフリカではエイズ患者の介護が大きな社会的問題となっている)が異なる国々の比較に、ケアダイヤモンドは有効な分析手法と言えよう。

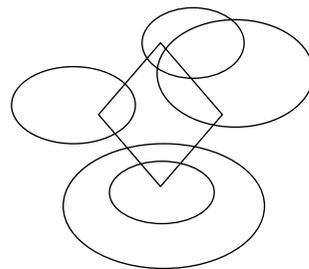
「ケアダイヤモンド」という枠組みは、当然のことながら、本プロジェクトの対象外である国々の比較にも適用することができる。一例を挙げると、図は、アジア数カ国で実施した別の調査の結果を、「ケアダイヤモンド」の枠組みで整理し直したものである。女性労働力活用政策をとる中国とシンガポールでは、子どものケアについては「国家」の役割が大きい、高齢者のケアについてはそうではないこと、シンガポールでは外国人家事労働者の雇用により「市場」の役割も大きい、中国では社区の政策的活用により「コミュニティ」の役割が拡大していることなどが示されている¹⁾。

中国のケアダイヤモンド

子どものケア

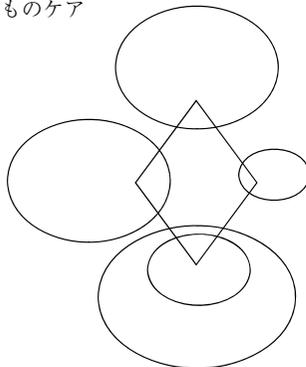


高齢者のケア

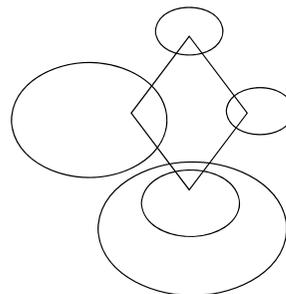


シンガポールのケアダイヤモンド

子どものケア



高齢者のケア



注

- 1) Ochiai, Emiko, 2009, "Care Diamonds and Welfare Regimes in East and South-East Asian Societies," *International Journal of Japanese Sociology*, 18: 60-78.

(落合恵美子 京都大学教授)